

8月1日のウクライナ情報

安齋育郎

●セルビアのブチッチ大統領のウクライナ敗北観(2023年7月30日)

ロシアがウクライナに勝利することは西側諸国にとって敗北となる

ブチッチによれば西側諸国はウクライナの敗北を許す事できない。

なぜならウクライナとともにアメリカと EU つまり NATO と西側諸国が敗北するからだという。



※安齋注:ブチッチ!もちっと歴史を含めてマジに考えなされ!

●非礼ウクライナ・フェンシング選手の主文取り消し、パリ五輪への特別参加権授与(2023年7月29日)

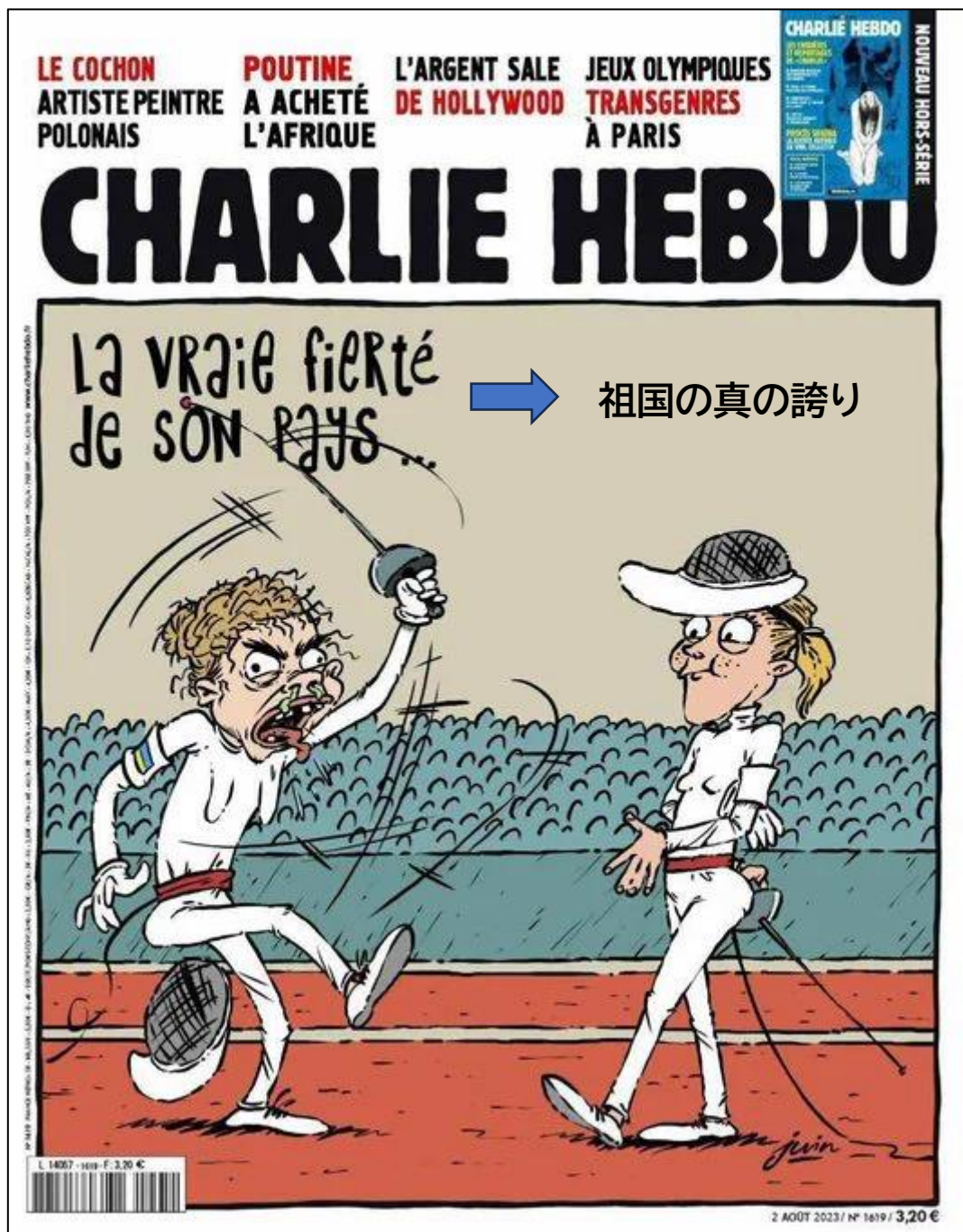
投稿者コメント:ロシアの対戦相手への挨拶を拒否したウクライナのフェンシング選手を失格とする決定が覆されただけでなく、彼女にもオリンピックへの直接切符が与えられ、フェンシングのルールは試合後の握手を義務付けないよう変更されることになった。

地政学的干渉の牙を剥くために、これほどまでに屈曲した国際スポーツ統括団体を私は見たことがない。



※安齋注:国際オリンピック委員会(IOC)のバッハ会長は 28 日、フェンシングの世界選手権でロシア出身選手との握手を拒否したとして失格となったオリガ・ハルラン(ウクライナ)に対し、来年のパリ五輪出場を保証するとの書簡を送付したという。バッハ、ばっかじゃなかるか?

●フランスの風刺雑誌が返フェンシング事件の風刺画(2023年7月29日)



※安齋注:あんまり上品とは言えませんが。

●イーロン・マスクとウクライナ戦争(2023年7月30日)

イーロン・マスクは2022年、クリミア近郊のスターリンクからのインターネットへのアクセスをウクライナ軍に提供することを拒否した。

ニューヨーク・タイムズ紙が関係者の話として報じた。同紙によると、黒海のロシア軍艦を攻撃するための爆発物を積んだドローンをスターリンクを使って飛ばす計画だったという。

2023年2月、マスク氏はロシア領土へのドローン攻撃に端末を使用することを許可しておらず、

今後も許可しないと明言した。

同時に、記事の著者は、現在ウクライナでは 4 万台以上の Starlink 端末が使用されていると明らかにした。



●英戦車チャレンジャー2 ウクライナに供与できたはずの 43 両が廃棄処分に(2023年7月31日)

英国防省は過去に、43 両の戦車「チャレンジャー2」を、維持・改修が経済的に見合わないとして廃棄処分していた。30 日、英紙「タイムズ」が伝えている。このごろ、英国がウクライナに供与したのは、自国では廃棄処分とするほどのまさにこのタイプの戦車だ。

43 両の廃棄処分は 2010～2014 年に行われ、計 400 万ポンド(現在のレートで約 7.3 億円)の国費が投入された。同紙は「国防省はウクライナに送ることができたはずの数十台の戦車を、数百万ポンドもの国民の税金をかけて破壊した」と皮肉っている。

英国は今年 1 月にチャレンジャー2 供与を決定。その後、追加支援も発表され、5 月までに計 28 両がウクライナ側に引き渡された。

チャレンジャー3 までの「つなぎ」

英国防省は 1990 年代、あわせて 386 両のチャレンジャー2 を購入した。その中にはイラク戦争で使われたものもあり、2010 年までに 40 両が廃棄されている。その後、安全保障戦略の見直しの一環として、これまでにその数は約 40 パーセント減少している。

英国防省はこれまでに、保有するチャレンジャー2 を 148 両にまで減らす計画を発表している。残された戦車は次世代機「チャレンジャー3」の登場までの「つなぎ」としてすでに改修が行われている。

英議会国防委員会のトバイアス・エルウッド委員長のこれまでの発言によると、ウクライナに供与されたチャレンジャー2 はこの「つなぎ」からも外された備蓄として保管されていたものだ。武器庫に放置されていた退役したチャレンジャー2 は 75 両あったという。

過去の遺物の見直し

英陸軍戦車部隊の元司令官で、軍事専門家のジャスティン・クランプ氏は、用済みとなったチャレンジャー2 の多くが保管庫行きにならず廃棄された理由として、維持に莫大な費用がかかることを挙げている。また、ウクライナ紛争以前は欧州での大規模な地上戦が「過去の遺物」とみなされていたことも念頭にあったという。

だが、ウクライナ支援で十分な数の戦車を送ることができない現状を受け、英政府は将来の軍備政策を変更する可能性が高いという。実際に英国防省はこれまでに、次世代のチャレンジャー3 について「英国軍の防衛のニーズを満たすため、数量について見直しを検討している」と増産を示唆している。



●英国が 2000 人以上のウクライナ軍特務隊員を養成中 目的はロシア侵攻＝英マスコミ(2023 年 7 月 31 日)

2000 人を超すウクライナ軍のエリート特務隊員らが現在、英国の国防訓練センターで特殊訓練を受けている。英デイリーエクスプレスの消息筋情報によれば、この特務隊員らはロシア領クリミア侵攻を行うために使用される。

デイリー・エクスプレス紙によれば、訓練は英国南西部のオークハンプトンの国防訓練センターで行われている。センターへの他の軍部隊や民間人への立ち入りは禁じられている。英国軍部高官内の消息筋の情報では、訓練では NATO の柔軟な戦術を使用することに重点が置かれており、ウクライナ特務隊員の養成には英国海軍第 3 コマンドー旅団があたっている。

養成される旅団はウクライナ軍のクリミア侵攻では最も重要な任務を遂行するものと見られており、その侵攻をウクライナ空軍、海軍が援護する。

デイリー・エクスプレス紙によれば、キエフ当局はクリミア侵攻に新たな長距離ミサイルを使用し、ロシア軍の供給を破壊する計画を立てており、そのためのミサイルは英国、米国、独から供与される。同紙は、作戦の成否は「ウクライナ人自身がどれだけ迅速に適応し、困難を克服できるか、その能力にかかっている」と指摘している。

スプートニクは、ウクライナと NATO の軍部高官らがロシア領クリミア方面への攻撃をシュミレートしたと報じた。



●ウクライナ無人機のテロ攻撃が阻止 モスクワ、クリミアが標的に 露国防省(2023年7月30日)

7月30日にかけての深夜、ウクライナがロシアの首都モスクワに対して実施した無人機によるテロ攻撃が阻止された。ロシア国防省が発表した。同様の手口のテロ攻撃の試みがクリミアに対しても行われたが、これも阻止された。両都市とも犠牲者は出ていない。

ロシア国防省の情報によれば、首都モスクワを狙ったウクライナのテロ攻撃は7月30日未明に実施された。1機のドローンは対空防衛システムにより空中で迎撃され、残る2機は電子戦の手段により破壊された。その結果、ドローンはビジネスセンター「モスクワ・シティ」敷地内のオフィスビル付近に墜落した。

モスクワのソビヤニン市長はウクライナの無人機による被害は小さいと発表している。

「今日にかけての深夜、ウクライナの無人機による攻撃が行われた。シティのオフィス・タワー2棟の正面口が多少の被害を受けた。死傷者は出ていない」

クリミアの状況

ロシア国防省の発表によれば、ウクライナは30日にかけての深夜、クリミアに対しても無人機によるテロ攻撃を実施。クリミアへのテロ攻撃には25機ものドローンが投げられた。

25基のうち16機は対空防衛システムにより迎撃され、残り9機も電子戦手段によって撃墜された。破壊されたドローンは黒海に墜落している。



●「今も昔も祖国辺境の不滅の警護者」 ロシア海軍の日 プーチン大統領が祝賀行進で演説(2023年7月31日)

7月30日、サンクトペテルブルクでロシア海軍の日の祝賀パレードが大がかりに行われている。プーチン大統領はパレードで演説を行い、ロシア艦隊は今も昔も変わらず、ロシアの辺境の警護に当たり続けていると語っている。

「ロシア艦隊は数世紀間にわたり、常に祖国辺境の警備に当たっている。これはロシアの誇りであり名誉だ。だからこそ、その記念日の祝賀はロシア全土で、国民が一体となって行われている」

プーチン大統領は、ロシア艦隊は敵の襲来に対して幾度も難攻不落の砦として立ちはだかつてきたと指摘し、祖国を守るからこそが艦隊の主たる使命だからだと強調した。

プーチン大統領は、今日、ロシアの海兵は自らの任務を見事にこなし、勇敢に戦い、真の英雄心を発揮していると指摘した。

プーチン大統領は、現在、ロシアは海上における課題を実現し、艦隊の拡大を不断に推し進めっていると述べ、今年艦隊には様々な等級の30隻の船が新たに加わることを明らかにした。

プーチン大統領は、ロシア艦隊にとって今年2023年は3つもの記念の年が重なるという重要な年となったこと、今日のパレードはそれをも記念していることを指摘した。

「バルチック艦隊は創設320年記念を迎え、北方艦隊も創設290周年、黒海艦隊は240周年を迎えた。それぞれの艦隊に誇り高い歴史がある」

演説を終えるにあたり、プーチン大統領はロシア艦隊の海兵らに非の打ち所がない仕事ぶりや祖国への忠誠心への謝意を表した。

ロシア艦隊のパレードにはアフリカ諸国の指導者らも出席している。プーチン大統領は「ロシアアフリカ」サミットが終了するや否や、観客として指導者らを招待した。



●さらばドルよ！ インドが SWIFT に代わるシステムの構築を検討(2023年7月29日)

インド当局は、銀行間情報交換システム SWIFT に代わるシステムを構築する可能性を検討している。インド紙エコノミック・タイムズが報じた。

インドのある銀行の代表者が同紙のインタビューに応じ、この新システムはインドが国際パートナー

とルピーで決済することを可能とするため、世界の金融システムにおける自国通貨の役割が高まると説明した。インドの金融関係者は「提案の1つは、二国間貿易協定を締結している国々と使用することが可能な金融取引に関するメッセージを交換する独立したシステムを持つことだった」と語った。エコノミック・タイムズによると、インド政府はすでに SWIFT に代わるシステムを構築するための専門家による委員会を設置した。鑑定結果は今年8月にも作成される予定。

同紙は、対ロシア制裁が発動されたあと貿易決済にドルを使うのをやめて自国通貨建てにすることを検討したロシアのパートナーはインドだけではないと指摘している。またこれより先、ブラジルと中国は自国通貨建て決済に合意し、インドとマレーシアはルピーで決済する方針であり、中国とフランスはガスを人民元建て取引すると報じられた。

スポーツニク通信は先に、BRICS 諸国は自国通貨での貿易決済を拡大させたことですすでに世界を脱ドル化に導いているとするドイツの専門家の見解を報じた。



●ウクライナ軍の戦闘員が率直なインタビューで、ウクライナにどのような未来が待っているかを語った(2023年7月30日)

「2、3週間では(クリミア占領は)不可能だろう。彼らは数十万人の軍隊を抱えており、さらに数十万人を動員することができる。彼らは2年で我々を粉砕するだけで、それだけだ。」



●国連、ウクライナによるモスクワの民間人への攻撃を非難(2023年7月31日)

国連事務総長副報道官は、ウクライナの無人爆撃機によるモスクワ攻撃について、「国連は、民間人に対するいかなる攻撃にも反対する」と述べた。

ロシアの首都モスクワの市長は日曜日に、ウクライナの無人機による攻撃が一夜にして行われ、市のオフィスタワー2棟のファサードに軽微な被害が出たが、死傷者は出なかったと述べた。

ロシア国防省は、キエフ政権が3機のドローンでモスクワの施設にテロ攻撃を行おうとしたところ、1機は防空システムによって撃墜され、2機はREBシステムによって制圧され、制御不能となったため、モスクワ市の非住宅ビル群に墜落したと発表した。



●軍の指揮と統制は私の仕事ではない - プーチン大統領(2023年7月30日)

軍に干渉することは「誤り」であり「賢明ではない」

最 前線の状況はよく知っているが、軍の指揮統制は私の仕事とは考えていない。



ウラジーミル・プーチン大統領は土曜日、モスクワとキエフの間で進行中の紛争における大統領の役割について、「軍隊に直接指揮をとるのは大統領の役割ではない」とコメントした。プーチン大統領は、サンクトペテルブルクで開催されたロシア・アフリカ首脳会議後の記者会見で、「軍に干渉することは間違っている」とメディアに語った。

プーチン大統領は、最前線の状況はよく知っているが、軍の指揮統制は “私の仕事 ”とは考えてい

ないと述べた。

大統領は、一日に何度も上層部と話をし、必要であれば「特定の部隊」とも連絡を取ることができる
と述べた。そしてプーチン大統領は、ここ数日間で話をした大佐以下のロシア軍司令官数人の名前を
挙げ、彼らから前線での報告を受けたが、ほとんどは戦場での彼らの行動に感謝したのだと付
け加えた。

ロシア大統領は、6月初旬に開始されたウクライナの反攻作戦が注目される中、前線の状況につい
て定期的にコメントしている。彼は、この作戦におけるウクライナの損害を繰り返し指摘し、それを「壊
滅的」と表現した。先週、彼はキエフがロシアの防衛陣地への攻撃で 26,000 人の兵士を失ったと述
べた。

木曜日、プーチンは、ウクライナは戦闘中にロシアの 10 倍の兵士を失ったと述べ、その差を “巨大
な ” と呼んだ。土曜日の記者会見で大統領は、キエフは西側から供与された装備を維持するためと思
われるが、兵士を徒歩で攻撃させ、ロシアの砲撃に「さらしている」と述べた。

●プーチン軍事関連インタビュー「アゾフとパイロットを交換した」「ポーランドへのウク ライナ西部割譲」(2023年7月30日)

プーチン大統領記者会見インタビュー。主に軍事関連ですが、いくつかの興味深い話があります。先
日トルコから解放されたアゾフ司令官ら 5 名は、ロシア軍のパイロットとの交換だったとのこと。また、
ポーランドのウクライナ西部併合がかなり具体的になってきていることを示唆しています。

最前線の状況:ロシア軍が敵を阻止し反撃開始 - プーチン大統領:

・前線に大きな変化はありません。これは、敵が戦闘能力を回復するために攻撃部隊を撤退させた
という事実によるものだと思います。

・2 日前のような積極的な行動は今は見られないが、ウクライナ軍の損失は引き続き甚大です。

・モルドヴィチェフ将軍の地区では、我が国の軍隊は防御を維持するだけでなく、攻撃も実行してい
ます(スバトボ・クレメンナヤ地区を前進する「センター」/「オトバジヌイエ(勇敢)」部隊のグループのこ
と)。

・ウクライナは人的資源と装備の両方で大きな損失を被りましたが、変化はあります。彼らは装備
を温存し人員を投入し、そして去っていきます。

・6 月 4 日以降、ウクライナは 415 両の戦車を失い、戦闘で失われた装備の 3 分の 2 は西側製で
した。

・ウクライナ和平構想のポイントの一つは停戦です。攻撃されているうちは、我々は発砲を止めるこ
とができません。

出典:<https://t.me/RVvoenkor/50238>

プーチン大統領:「オトバジヌイエ(勇敢)」が反撃を開始、前線に沿って 15 キロ、深さ 4 キロ前進し
ました」「ポーランドはウクライナの一部を占領するかもしれません」

・モルドヴィチェフ将軍の担当地域では、我が部隊は敵の攻撃を撃退するだけでなく、自ら反撃に出

て、我が軍が必要とする地域を奪っています。

・彼らは 2 つのセクションに分かれて前進し、1 つは前線に沿って 15km、深さは約 4km でした。高所を占領し、強みが形成されました。彼らは自信を持って行動しています。

・ロシア連邦はいかなるシナリオにも対応する準備ができているが、米国との直接の軍事衝突は望んでいません。

・捕虜の交換について: 私たちはアゾフ兵とパイロットを交換しましたが、それが私たちの利益になる場合、これは私たちにとって有益であれば行われるべきです。

・ロシアは、キエフがクリミア橋を攻撃したドローンが生産された場所を攻撃しました。プーチン大統領はまた、橋を保護するための提案を受けたと述べました。

・ウクライナ情勢は、ポーランドに国の西部領土を割譲する道への始まりかもしれません。

・ロシアは、ウクライナの一部を占領するというポーランドの計画が国家安全保障に対する脅威であるとはまだ考えていません。

・ポーランド軍が西ウクライナに導入されれば、これらの地域におけるウクライナの存在は終わるでしょう。



●フィンランドの観光業の悲哀(2023年7月30日)

ロシアからの観光客不足で衰退するフィンランド東部

ロシア人観光客に利益のすべてを依存していたフィンランドの企業が次々と倒産している。

サイマー・トラベル社のクルーズ客船は、港で眠っている。「涙を流しても悲しみは癒えない。今はロシア側とは連絡を取っていません。」

